

目的 特殊米(こゝでは赤米及び香米に限定する)はかつて日本で広く栽培されていたようであるが、現在ではほぼ完全に消失しているとされている。しかし、香米は高知及びじめ宮崎・鹿児島県の山間部ではまだかなり栽培され、一部ではあるが市場に流通している。一方、ジャポニカ系赤米は古い神社の神米として栽培され市場には全く見られない。これら特殊米(特に赤米は日本に渡米した古代の米は赤米と推定されている関係上)は、民俗学及び農学的立場からの調査・研究はみられるが、食品学的立場からのデータは皆無に等しい。本研究はこれら赤米・香米について食品学的にアプローチしようとするものである。本報告は日本に残存するジャポニカ系赤米の栽培地とその形態について報告する。

方法及び結果 過去の文献をもとにして近畿以西のかつて栽培されていたとされる神社を中心に調査した結果、久々頭魂神社(長崎県下県郡厳原町(河馬)豆置)、宝満神社(鹿児島県熊毛郡南種子町釜永)、国司神社(岡山県総社市新本)、談山神社(奈良県桜井市夕武峰)の4神社で神米として栽培されていることを確認した。その他文献上記載されている赤米は現在では完全に消失していた。また神米と無関係の赤米が徳島県池田町黒沢に存在することを確認した。これら5種の赤米はいずれもワルチ米であり粒長と粒中を測定した結果インディカとジャポニカの間及びジャポニカ系であることが明らかにされた。研究室での試験栽培による生育過程及び走査型顕微鏡、切片の顕微鏡結果などを総合した結果、それぞれ異なり、5品種であることがほぼ明らかとなった。